

La Confiance

ラ・コンフィアンス

大阪赤十字病院 患者総合支援センターだより

Confiance (コンフィアンス)とは、フランス語で「信頼、信用」を意味します。

vol.47

2025年 春号



令和7年度を迎えて

大阪赤十字病院 院長 坂井 義治

Topics

「肺がん・胸部疾患センター」を
開設しました

診療科紹介 医療最前線 〈消化器内科〉

膵がんの予後の改善を目指す
「膵がん早期発見プロジェクト」



令和7年度を迎えて

大阪赤十字病院 院長 坂井 義治

日頃より当院へ多大なご支援をいただき、心より御礼申し上げます。

昨年末に、厚労省より2040年に向けた医療供給体制の総合的な改革に関する意見(案)が公表されました。2040年頃にピークが予想される85歳以上の高齢者人口と高齢者救急搬送増加への対応や、生産年齢人口の減少に必ずるために、機能分化も含めた医療供給体制の整備、医師偏在の是正、デジタル・トランスフォーメーション推進の方針が再確認されています。そして今年1月30日に開催された医療介護福祉政策研究フォーラムでは医療機関は「チキンレース」に陥る前に「積極的撤退戦」が肝要と警鐘が鳴らされました。こうした社会状況に必ずるために、当院では2年間にわたり病床を徐々に削減してきましたが、今年の2月末日にさらに55床、合計136床を削減しました。一方で救急患者の受け入れを促進するために、昨年はSCUを3床から6床へ拡充し、HCU16床の新設と内視鏡透視室も1室増設(計2室)しました。さらに4月からは救急医も3名増員し、夜間帯の救急にも対応できる体制を強化しております。

これからも地域の中核病院として地域医療構想に沿いながら、高度先進医療の提供と三次救急救命センターとしての応需に努めてまいります。引き続きどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

Topics

「肺がん・胸部疾患センター」を開設しました



呼吸器外科主任部長 園部 誠

● チームで方針を検討し、患者さんに適切な治療を届けます

当院では従前より進行肺がんなどの難治性の呼吸器疾患に呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科合同で集学的治療を行ってきました。また気管支喘息、呼吸器感染症、肺気腫、間質性肺炎などの胸部疾患に対して呼吸器内科を中心に診療に当たってきました。この度、近年の複雑化する胸部疾病の診断・治療に対応し、さらに充実した診療体制を築くことを目的に呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科、腫瘍内科を中心に「肺がん・胸部疾患センター」を立ち上げました。

肺がんの診療は、バイオマーカー検索を含めた質的診断、治療方針を決定する病期診断に始まり、手術治療、放射線治療、近年発達した免疫チェックポイント阻害薬や特異的キナーゼ阻害薬を含めた化学療法、これらを組み合わせた集学的治療、緩和治療、患者さんや家族への精神的、社会的サポートなど多岐にわたります。関連部署同士の円滑な連携を図り、患者さん毎の個別状況をも加味してチーム全体で最適な治療を患者さんに提供できる環境をつくってまいります。



▲カンファレンスの様子

肺がん以外にも、診断が困難な希少な胸部疾患や難治性の呼吸器疾患は数多あります。これらに対して複数の呼吸器疾病専門医により診断・治療を検討し、患者さんに安心をもたらす医療を提供します。また、胸部疾患を有する患者さんは他にも複数の疾病を抱えておられる場合が多いため、安全に診断・治療を進めるべく当該診療科と連携して併存疾病のマネジメントを行ってまいります。肺がんやその他の胸部疾患でお困りの場合は、気軽にご相談いただけますと幸いです。

▼【呼吸器外科 診療実績】

全身麻酔下の手術件数(2024年1月~12月) 277件

疾患名	手術件数
原発性肺がん	138件 胸腔鏡下:102件/ロボット支援下:24件/開胸:12件 病期別 IA期:91件/IB期:15件/II期:15件/ III期以上:17件 術式別 肺葉切除:84件/区域切除:29件/ 部分切除:25件 術前治療あり 化学放射線治療後:5件/ 化学療法後:3件
他臓器がん 肺転移	24件 胸腔鏡下:22件/ロボット支援下:1件/ 開胸:1件
気胸	36件 胸腔鏡下:36件
縦隔腫瘍	17件 胸腔鏡下:10件/ロボット支援下:6件/ 開胸:1件
その他	62件 各種良性:15件/炎症性胸部疾患:19件/ その他胸部疾患、生検など:28件

膵がんの予後の改善を目指す 「膵がん早期発見プロジェクト」

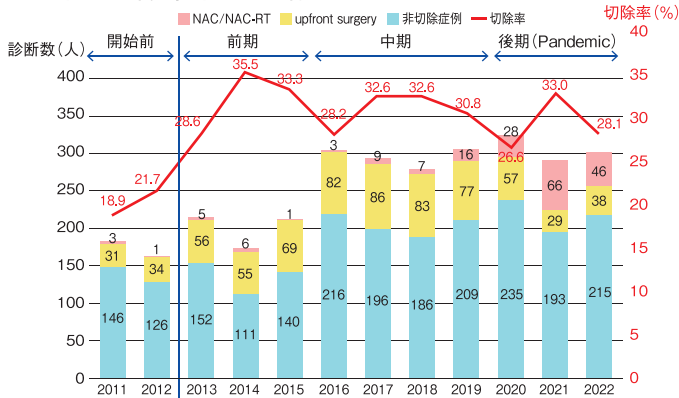
2023年人口動態統計(厚生労働省)によると、日本における膵がん死亡者数は4万人を超え年々増加傾向にあります。かつては国民病ともいわれた胃がんを抜いて、死亡者数では肺がん、大腸がんに次ぐ第3位を占めるまでになりました。5年相対生存率(国立がん研究センター)は8.5%と予後が極めて不良な疾患です。胆膵領域のがんでは外科切除が可能な病期での早期診断が難しく、診断時には多くが切除不能進行がんであることが予後不良の要因となっています。

そこで、膵がんの早期診断と予後の改善を目指して、複数の医師会と基幹病院(北野病院、済生会中津病院、大阪市立総合医療センター、淀川キリスト教病院、当院)が連携し、2013年に「大阪市膵癌早期発見プロジェクト」を開始しました。膵がんの早期診断についてすでに実績をあげていた尾道市医師会とJA尾道総合病院の取り組みを参考にし、腹部症状、腹部エコーでの軽微な膵管拡張や膵嚢胞、膵酵素・腫瘍マーカーの異常、糖尿病の新規発症や増悪などの膵がんリスクのある患者さんを基幹病院で精査し、膵がんであれば基幹病院で治療する一方で、膵がんではないもののリスクのある場合はかかりつけ医と連携して経過観察していく地域医療連携体制を構築しました。

●膵がんの切除率の推移

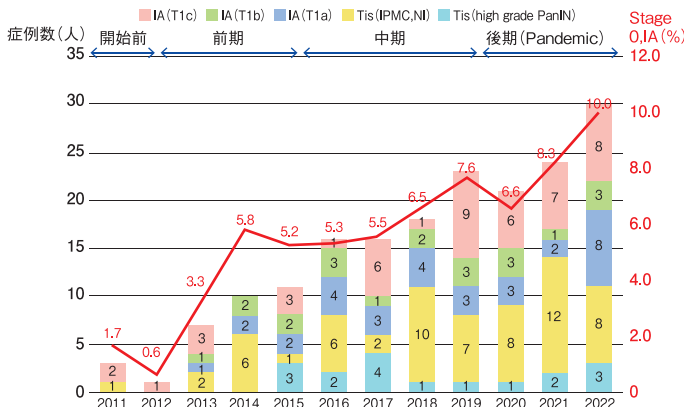
膵がんの症例数は、プロジェクト開始前は平均171症例/年でしたが、プロジェクト開始後は増加傾向となり、前期で202症例/年、中期では平均293症例/年へと増加しました。切除率はプロジェクト導入により開始前の20.5%(2011-12年)から30.7%(2013-22年)へ有意に上昇しました。

▼約300症例/年 約3割が切除



●Stage 0, IA膵がん症例数と全膵がんに占める割合の推移

早期の膵がんであるStage 0, IA膵がんの症例数は、プロジェクト開始前は平均2例/年(全膵がんの1.2%)と少数でしたが、プロジェクト開始後の前期では平均9.3例/年(4.7%)、中期では平均18.3例/年(6.2%)、後期では平均25例/年(8.3%)へと増加傾向であり、特にStage 0の非浸潤がん(上皮内がん)での診断例が増えていることは本プロジェクトの成果であると考えられます。



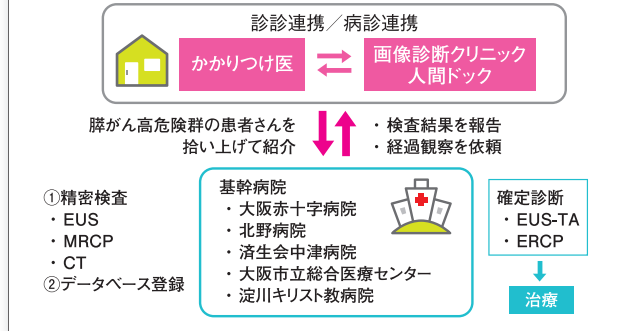
Profile

消化器内科・
肝胆膵がんセンター
副部長
浅田 全範

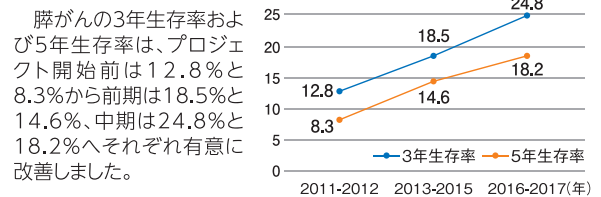


1994年神戸大学医学部卒業。2006年京都大学大学院医学研究科博士課程修了。同年北野病院消化器内科副部長。2015年大阪赤十字病院消化器内科副部長、現在に至る。【資格】日本内科学会認定内科医/日本消化器病学会専門医・指導医/日本消化器内視鏡学会専門医・指導医/日本膵臓学会認定指導医/日本膵臓学会認定膵臓専門医・指導医/日本がん治療認定医機構がん治療認定医

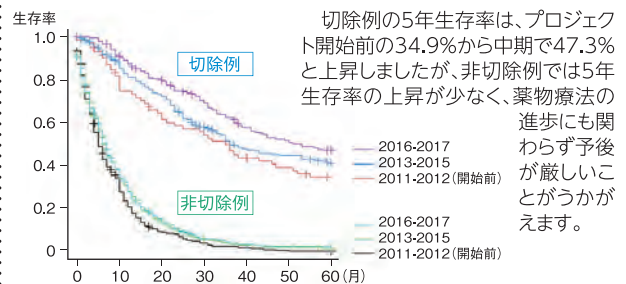
■連携のコンセプト



●膵がん患者の生存率が改善



●切除例と非切除例の生存曲線



●本プロジェクトの結果より

膵がんの予後の改善のためにはできるだけ早期の切除可能な膵がんを診断することが重要と考えられます。地域のクリニックの先生方にはこれまでの本プロジェクトへのご協力に対し、感謝申し上げますとともに引き続き緊密な医療連携をお願いしたいと存じます。

●胃カメラだけで大丈夫ですか？

内視鏡検査で器質的な異常がなく、原因が不明な上腹部の不快感や痛み、慢性下痢の症例をしばしば経験します。その多くは機能的ディスペプシアや過敏性腸症候群などの機能的消化管障害として治療されますが、それらの一部に膵がんが含まれていることがあります。酸分泌抑制薬などで治療を続けているうちに、病状が進行してから当院を受診されることが多いです。腹部エコーでは膵がんの発生部位によっては異常を指摘し難い症例があることも事実ですが、もし腹部エコーをしていただいていたなら…と思わせる症例もございます。もう少し早く膵がんを拾い上げるために、お手間ですが腹部エコーを加えていただきたくお願い申し上げます。

当院では腹部エコー・上部消化管内視鏡検査・CT・MRIについてはFaxやWebでお申し込みいただければ、外来受診を介さず予約できます。腹部エコーをされていないクリニックでは、ぜひご活用ください。

第32回 大阪赤十字病院懇話会のご案内

日頃ご紹介をいただいています諸先生方と当院の医師との地域医療連携をより一層深めるため、下記の日程で懇話会を開催いたします。今回は、京都大学 iPS細胞研究所名誉所長・教授の山中 伸弥先生をお招きしご講演いただきます。何かとお忙しいことと存じますが、ご出席いただきますようお願い申し上げます。



▲ 昨年の懇話会の様子

- ◆ 日 時 / 2025年6月7日(土)
・学術講演会 15:00～ ・懇 親 会 17:00～
- ◆ 場 所 / シェラトン都ホテル大阪 4階 大和の間
- ◆ 主 催 / 大阪赤十字病院 ◆ 共 催 / 天王寺区医師会
- ◆ 対 象 / 医療従事者 ◆ 参加費 / 無料

学術講演会演者

- ・大阪赤十字病院 副院長 兼 消化器外科部長 森 章
- ・大阪赤十字病院 消化器外科部副部長 細木 久裕

特別講演

- ・京都大学 iPS細胞研究所名誉所長・教授 山中 伸弥先生
「iPS細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」



事前登録が
必要です。
登録はこちらから



※大阪府医師会生涯研修システムに
申請予定です。

2024年12月2日より「WEB予約」を始めました

登録医
限定

★CT・骨塩定量・上部内視鏡・
腹部超音波検査の
受付締切が、
5日前→3日前までに
短縮しました！

★4月から、
RI検査(骨シンチのみ)も
WEB予約が
ご利用いただけるようになります。

2024年12月2日より、登録医の先生方を対象に、WEB予約を始めました。インターネットを通じて24時間利用可能で、アプリなどのインストールは必要ありません。今後も地域の医療機関との連携を緊密に行うため、皆さまのご意見をもとにサービス向上に努めてまいります。ぜひ、ご利用ください。

診察予約・検査予約(一部検査を除く)

3日前まで ※閉庁日を除く

お問い合わせ WEB予約や登録医制度など

大阪赤十字病院 地域医療連携室

TEL:06-6774-5127 (直通) FAX:06-6774-5126 (直通)

MAIL:area-medical@osaka-med.jrc.or.jp

人事異動紹介

昇任

2025年2月1日付



呼吸器内科
副部長
中川 和彦

新任

2025年4月1日付



耳鼻咽喉科・頭頸部外科
部長
濱口 清海

新任

2025年4月1日付



整形外科
部長
川合 準

昇任

2025年4月1日付



小児外科
部長
高田 斉人

昇任

2025年4月1日付



リウマチ・膠原病内科
部長
片山 昌紀

▼日赤オンライン医学講座

地域の先生方や一般市民の皆さま向けにオンラインでの医学講座を行っています。申込不要でお好きな時間にご視聴いただける10～20分程度のミニ講座です。

ぜひ、
ご覧ください！

● 当院ホームページから視聴できます。

● YouTubeによる動画配信

● 月に2回、原則毎月1日・15日に
新規動画を配信。

※ 休日の場合は翌開庁日です。



発行

大阪赤十字病院 医療連携・入退院支援課

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30

<https://www.osaka-med.jrc.or.jp>

2025年4月発行

■医療連携・入退院支援課のご案内

受付時間 / 平日8:30～20:00、土曜8:30～13:00

休 診 日 / 日曜・祝日、12月29日～1月3日(年末年始)、5月1日(本社創立記念日)

連 絡 先 / (直通) TEL:06-6774-5127

FAX:06-6774-5126